



父の遺した資料館を守りたい

君津市 相川 金佐

私の父は子供の頃から物集めが好きでジャンルを問わずいろいろな物を集めており、私も父に影響され2人で収集するようになった。

父が中学校長を退職したのを機に、長年の夢だった資料館を建てることにした。昭和60年、宅地の一角に木造2階建て延べ140平方メートルの『相川資料館』を建てた。

そこには自宅にあった生活用品をはじめ、親戚や知人から譲り受けた品や骨董店から買ったものなど、江戸時代からの民族資料を中心に数千点を展示しており、入館料は無料で開放している。

主に衣・食・住をはじめとした生活用品、明治・大正・昭和の時代に使用した教科書、いろり・ひで鉢・灯台・燭台・行灯・提灯・ランプ・電灯などの灯火類、昔懐かしい子供の玩具や農機具類を展示している。



開館当時は、テレビ・雑誌・新聞等に取り上げられ、学校や老人会などの団体をはじめ大勢の人が見学に訪れた。

資料館を開館するまでには、いろいろな苦労があった。骨董店に何度も足を運んで欲しい品物をさがしてもらったり、知人が家を新築する時「古い物があるので、欲しいなら取りに来て」と声をかけてくれたり、軽トラックで遠く和田町（現南房総市）まで荷馬車を譲り受けにいったりして、いろいろな思い出の品でいっぱいである。

父は口癖のように、ここにある品物はその時代に使い込んだ生活の必需品で、どれも生活を支えてきた。今の文明は、これらの過程に支えられ現在がある。みんなから見ると、ただの「がらくた」に過ぎないが、私にとっては「我楽多」であり「我、楽しみ多し」と言っていた。

その父も10年前に他界し、現在は、私が館長として管理している。私も退職してすぐ、父の後を継ぎ『相川資料館』を守っていきたいと思っていたが、自治会長はじめいろいろな役職をしたり、月に15日間勤務の仕事をしたりしており、思うように管理できない。今は、「しばらくの間、休館します」の看板をさげている状態である。しかし、事前に連絡がある場合は対応したり、博物館や公民館の展示や、学校での授業などの教材として貸出もしている。

今後、収蔵品の管理台帳を整備しながら資料の知識を習得し、父の遺した『相川資料館』を守っていきたい。

